

その方を通して聖書と交わる

その方との出会いは、偶然かそれとも必然か。

私の手元には聖書が無い。ゆえに、神の教えがどういうものなのか、私は理解していない。しかし、その方と言葉を交わす時、私は聖書の世界に潜り込んだような不思議な感覚にとらわれる。

その方の生き方は至ってシンプルで、迷いが生じた時は自分の意思に従わず、聖書の言葉に心を向ける。信仰心のない私の目には、すべてを神に委ねるその姿が、時に無責任にも見え、時に心を委ねるものがあることを羨ましく思う。

その方の信仰が正しいか否かは、私にとって重要なことではない。ただ私の目には、その方がとても純粋に聖書と向き合っているように映るのだ。だからこそ私は、その方の心つまり信仰心を傷つけるようなことはしたくない。私の手元には聖書が無い。ゆえに、神の教えがどういうものなのか、私は理解していない。しかし、無知であることで無意識に信仰を否定し、その方の生き方を傷つけるようなことはしたくない。

その方は友人でもなく、恋人でもなく、家族でもない。いわゆる友情・愛情・家族愛でつながった関係ではない。その方との関係をどう定義したら良いのか、正直私自身もよくわからない。ただ、その方は私にとってとても大切な人なのである。だからこそ、その方とはしっかりと向き合いたい。その方が生きている世界を、その方が見ている世界を、その方が感じている世界を理解するために、私は今日もその方の言葉に耳を傾ける。もしかしたら私は、その方の言葉や仕草、考え方や生き方を通して聖書と交わっているのかもしれない。

その方と私の出会いは、偶然かそれとも必然か。私はその方との出会いを偶然だと考えている。しかし、その方を通して感じる聖書の世界においては偶然はなく、すべてが神により創造されたものなのだということを強く感じる。そうであるなら、この出会いもまた神により定められた必然の出来事なのかもしれない。

私の手元には聖書がない。しかし、私のそばには聖書の世界を想像させてくれるその方がいる。